

社会的背景を考慮したスポーツ科学・医学・情報支援の推進

中項目1：アスリート育成パスウェイの充実に関する研究（2024年度～）

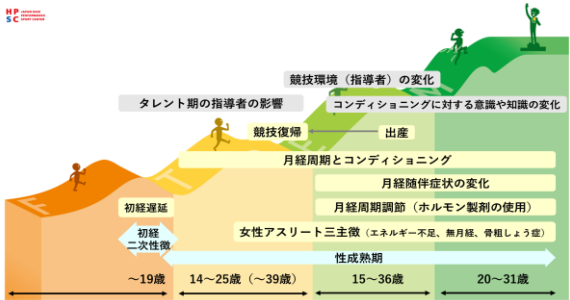
研究課題1：
スポーツタレントからエリートアスリートまでの
身体面に関する縦断的な検討

ジュニア期の体格や体力データのみで将来のポ
テンシャルを断定することには限界がある。運
動能力の高い集団においては、突出した身体能
力よりも「女子であること」や「成長過程での
競技転向」といった構造的要因がエリート到達
の重要な予測因子となっている。早期の数値に
依存しない多角的な選抜指標の策定や、個々の
成長に合わせた競技の最適化が重要である。

学年		回帰式に含まれる変数		P	OR
		Variable			
小学校	5	性別（女）	.002**	21.138	
		スポーツ転向（あり）	.005**	27.047	
		20mシャトルラン （定数）	.006**	1.092	
中学校	6	性別（女）	<.001***	7.861	
		スポーツ転向（あり）	.003**	7.140	
		20mシャトルラン （定数）	<.001***	1.068	
	1	性別（女）	<.001***	7.535	
		スポーツ転向（あり）	.006**	5.867	
		20mシャトルラン （定数）	.020*	1.036	
	2	性別（女）	<.001***	48.219	
		スポーツ転向（あり）	.007**	6.158	
		体重	.011*	1.135	
	3	性別（女）	<.001***	127.696	
		スポーツ転向（あり）	.003**	10.900	
		体重	<.001***	1.160	
		20mシャトルラン （定数）	<.001***	1.069	
			<.001***	0.000	

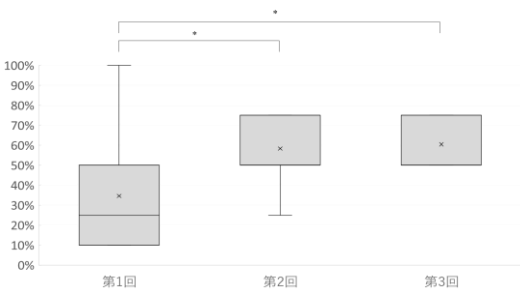
研究課題2：
女性アスリートの多様な課題を考慮した
女性アスリート育成モデルの構築

女子アスリートは、タレント期において規範を
内面化する一方で、断片的な理解や誤概念が定
着しやすいため、修正が困難になる前のジュニ
ア期からリテラシー教育を徹底することが不可
欠である。エリート期には、自己調整学習能力
が高まった際、アスリートを支える多分野の専
門家が適切に協働できる高度なサポート体制の
構築が極めて重要である。



研究課題3：
競技特性に見合ったアスリート育成パスウェイを
構築するための多様な実践的な知見の蓄積

中長期的なアスリート育成の指針として活用さ
れる「競技別パスウェイモデル」の構築におい
て、組織内での共通理解の形成や、属人化され
た経験の言語化に多くの困難を伴うことが確認
された。しかし、対話を重ねる可視化プロセス
自体が、組織全体の目標共有や一体感の醸成に
大きく寄与することも明らかになった。

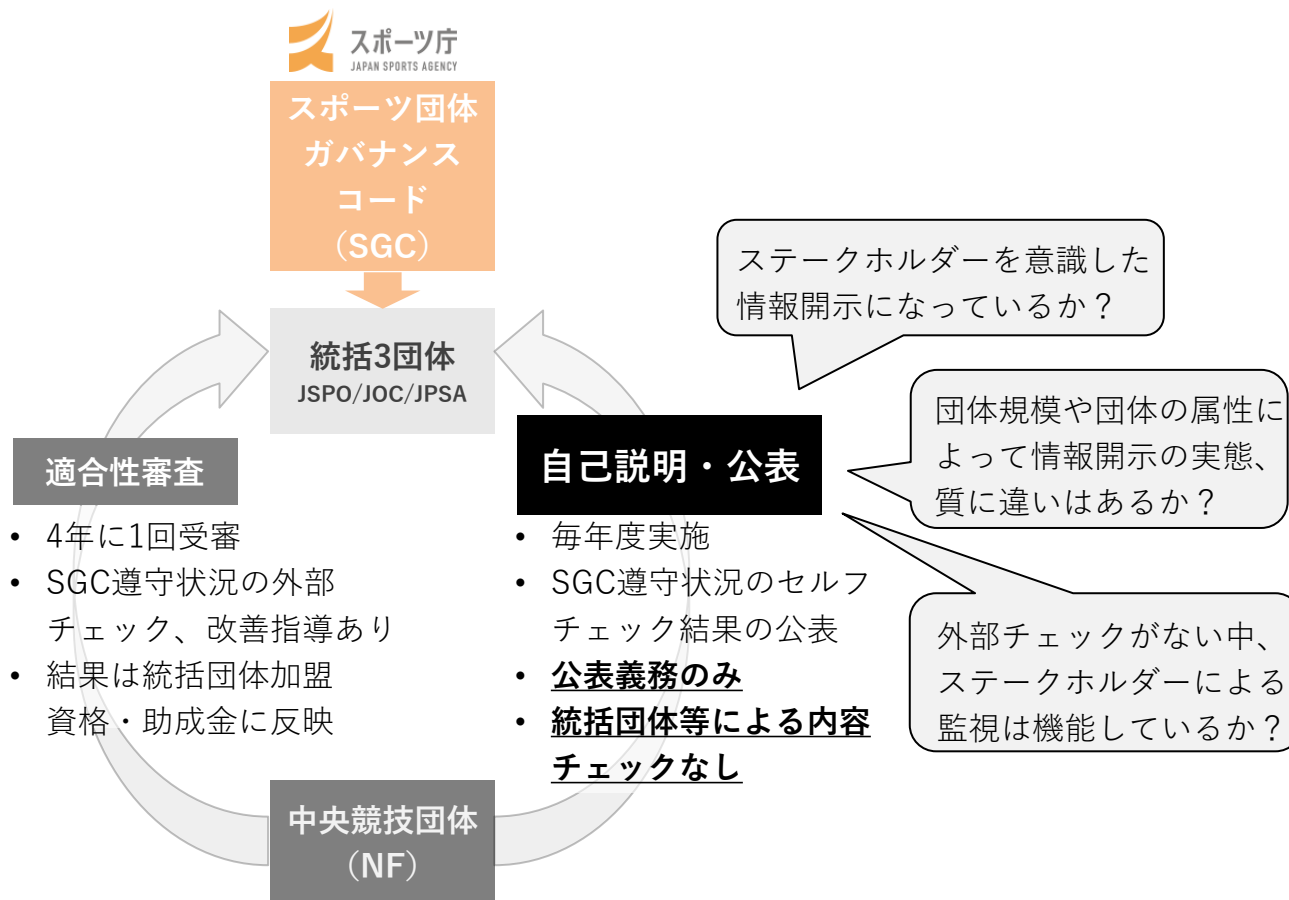


地域・NFによるアスリート育成パスウェイ充実のための学術的知見提供

研究成果の発信：論文採択 3編／学会発表 14件／関連会議での情報提供 2件

中項目2：スポーツ団体ガバナンス強化に関する施策の評価（2025年度～）

< 中央競技団体のガバナンス強化施策の概要 >



外部機関による審査を伴わないセルフチェックはスポーツ団体のガバナンス強化を促進しているといえるだろうか。

本研究では、「スポーツ団体ガバナンスコード」（SGC）の導入に基づき実践されている「自己説明・公表」という施策が、SGCに示される通り、中央競技団体（NF）において「団体内部のみならず、多様なステークホルダーとの間で対話しながら、適切なガバナンスの構築」を進める政策効果があるのかについて検証を行う。

【研究課題1】

定量データによる「自己説明・公表」の効果検証

2020～2023年の期間に公表された各NFの「自己説明資料」（定性データ）を点数化（量的データ化）することで分析し、外部審査のない「自己説明・公表」であってもNFのSGC遵守を促進していると言えるか否か、また団体の属性や規模により結果が異なるか等について検証する。



【研究課題2】

自己説明の公表方法の事例分析

自己説明資料とその関連資料をNFがホームページを通じてどのように公表しているかを分析し、「自己説明・公表」が、SGCが求めるステークホルダーとの対話を促進するツールとして機能しているかについて検証する。



【研究課題3】

定性データによる「自己説明・公表」の効果検証

定量データ分析では捉えられない団体内部の動き、好事例や課題等について、研究課題1・2の結果を踏まえ、特徴的と考えられるNFのヒアリング調査を行う。

